

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

JUEN



【ジュエン】

Joetsu University of Education

2018
秋
No.40

国立大学法人
上越教育大学
Joetsu University of Education
学園だより

創立40周年 特別企画

上越教育大学と 上越市の40年





創立40周年 特別企画

上越教育大学と 上越市の40年



建設中の上越教育大学



開学初期の上越教育大学

初代学長 辰野千壽先生



略歴

1920(大正9)年5月31日、長野県上伊那郡西春近村(現伊那市)生まれ。東京文理科大学心理学科卒業後、東京文理科大学副手、東京教育大学教育学部助手・講師、助教、教授、筑波大学副学長等を歴任。この間、「学習における禁止及び促進の研究」(1961年)で東京教育大学文学博士。

1978(昭和53)年10月、上越教育大学が開学し学長に就任。1989(平成元年)年3月まで10年6月間在任。筑波大学名誉教授、上越教育大学名誉教授、勲二等旭日重光章。

退官後も、(財)応用教育研究所長、学校教育研究所理事長、図書教材研究センター理事長、(社)日本教育会会長、日本教材学会会長などを務める。

2016(平成28)年1月20日、原発不明腫瘍のため死去(95歳。従三位)。

主な著書等

『学習心理学総説』『問題解決の心理学』(以上、金子書房)、『教育心理学』(国土社)、『学習指導実践シリーズ』(5部作)、『教育評価事典共編』(以上、図書文化)、『教室の心理学』『授業の心理学』『学習心理学』(以上、教育出版)ほか多数。

辰野千壽教育賞

上越教育大学では、平成20年度に創立30周年を記念し、初代学長である辰野千壽先生の長年にわたる教育・研究業績の精神を受け継ぎ、我が国の教育に多大な影響を与えられた教育・研究の振興に貢献するため辰野千壽教育賞を創設しました。

本教育賞は、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び保育所等の教育現場における特色ある実践研究及び先進的取組を讃え、更なる発展に向け積極的に支援することを目的としています。

このたび、平成30年度の受賞者が決定し、10月6日(土)創立40周年記念式典の当日、第11回辰野千壽教育賞の授与式を行う予定です。



前回(平成29年度)の授与式



イメージキャラクター
マナーブ・デ・
ジョーキョー先生
(2014年誕生)

本学の校舎をモチーフとしたキャラクター。ある意味ものすごく見慣れた存在。学内コンペで応募のあった22点の作品から、教職員と学生の投票によって選出されました。

40年の長い歴史の中、
様々な出来事がありました!

上教大 ピックアップ!



1
プレハブの
仮事務室開設
(1978年)

大学創設に併せて設置されました。本当に小さな事務室でした。当初は新潟大学教育学部高田分校に仮事務室が置かれ、ここから第一期生受入準備などがスタートしました。写真は当時のスタッフです。中列右から4人目に初代学長辰野千壽先生も。

国立大学法人
上越教育大学
Joetsu University of Education

4
ロゴマーク (2014年制定)

古くから「緑の小道」に生育し、風雪に耐えて緑を維持し、春を経て清々しい若葉とともに可憐な花や実をつける(オクチョウジザクラ、オオバクロモジ、ヒメアオキ、ハイイヌツゲなどの)植物をモチーフとしています。雪国に所在する本学を特徴づける図案とともに制定されました。



2
雪

1980年代以前では、高田でも積雪2mを超えることが多かったようですが、ここ最近は積雪1mを超えることが自体珍しいようです。ただ、毎度のことですが雪かき、雪下ろしは重労働です。

上越教育大学創立40周年にちなみ、特別企画として本学と上越市のあゆみを振り返りました。

高田師範から続く教育の灯を消してはならないという、上越市民の力強い後押しがあって設立された本学は、これからも市民・国民の期待に応える大学であり続けます。

上越教育大学と 上越市のあゆみ

上越教育大学

上越教育大学創立

第84回国会で「国立大学設置法及び国立
養護教諭養成所設置法の一部を改正する
法律」が成立し、本学の設置が決定。辰野
千壽先生が初代学長に就任。

1978
昭和53年

学生受入開始 第一回学部入学式挙行

1981
昭和56年

大学院学校教育研究科 修士課程設置

1983
昭和58年

兵庫教育大学大学院連合 学校教育研究科(博士課程)へ 構成大学として参加

1996
平成8年

国立大学法人 上越教育大学成立

2004
平成16年

大学院学校教育研究科 専門職学位課程(教職大学院) 設置

現職教員を対象としたスクールリーダー
の育成及び即戦力となる新入教員の養成
を目的として設置されました。

2008
平成20年

創立40周年

関係機関、関係者のご理解とご協力によ
り、これまで多くの高度な専門職業人と
しての教員を輩出し、ここに一つの節目
を迎えることができました。

2018
平成30年

大学改革実施

更なる飛躍を目指して大学院
及び学部の改組を実施します。

(12・13ページを参照)

2019
平成31年

教員養成系大学を取り巻く環境は年々厳しく
なっています。学校現場が抱える様々な課題に正
面から取り組み、これからも即戦力となる高度な
教員を養成するとともに、学校現場の課題解決に
役立つ大学であり続けます。

上越市

1971
昭和46年

上越市誕生

1976
昭和51年

「上越市民の歌」完成
作詞 小林隆治さん
補作詞 森菊蔵さん
作曲 柏林正一さん
現在は「サンバ上越市民歌」として
市民に親しまれています。

1980
昭和55年

上越市立水族博物館
(旧水族館)開館

1994
平成6年

上越ウイングマーケット
開業

1999
平成11年

上信越自動車道全線開通

2005
平成17年

「平成の大合併」
近隣13町村と合併

2006
平成18年

新上越市民歌
「このふるさとを」完成
作詞 上原みゆきさん
補作詞 杉みき子さん
作曲 後藤丹先生(本学名誉教授)

2007
平成19年

GACKTさん
第82回 謙信公祭に出陣
以降2015年まで7度出陣

2015
平成27年

北陸新幹線
長野ー金沢間営業開始

2018
平成30年

「上越市立水族博物館
うみがたり」開館
(リニューアルオープン)



JR 東日本提供

上教大 ピックアップ!

上教大には素敵な場所がいっぱいあります!



緑の小道

学内に保全されている雪
国の里山。逆にこの里山
周辺にキャンパスが割り
込んでしまっているのか。
キャンパス内のごく限ら
れた小さな範囲かもしれ
ませんが、大切にしてい
きたいですね。



天体望遠鏡

L型フォーク赤道儀式/
28cm SC 反射望遠鏡

自然棟の屋上にある。なぜか、当初は望遠鏡
がなく外側の天体ドームしかありませんで
した。待望の望遠鏡は平成21年に設置。た
だ、未だに「外側だけでしょ？」などの噂が絶え
ない。ご安心ください。ありますよ。

上越市 ピックアップ!

上教大は、魅力ある地域とともに歩み続けます!

北陸新幹線 開業

(2015年)

上越市に待望の新幹線が
開通しました。長野・東
京方面だけでなく、富山・
金沢(京都・大阪)方面
へのアクセスが格段に良
くなりました。上越妙高
駅の開業時には、マナーブ
デ・ジョーキー先生も駆
けつけてお祝いました。



高田城百万人観桜会

高田公園の桜は日本3大夜桜の1つに数えられ、4月の開
花時には日本全国から100万人を超える観光客が訪
れます。会場となる高田公園のすぐ近くには、本学
の附属小学校・中学校が所在します。観桜会の開
催時には、本学学生が課外活動団体やゼミの新入
生歓迎会で訪れることも多く、ちょうどその頃
に満開を迎えることも見逃せません。



上越市による入学生歓迎式典

教育実習の様子

比べてみました!
学生の身長・体重・BMI値

入学(年)	身長(cm)	体重(kg)	BMI
男子 昭和56	171.7	61.7	20.9
男子 平成30	172.9↑	64.7↑	21.6↑
女子 昭和56	158.7	52.4	20.8
女子 平成30	159.6↑	51.9↓	20.4↓

開き手 大学院一期生 阿部 靖子教授
編集委員 小高 さほみ教授



一期生
藤井 和子 教授

1985年3月 学校教育専修卒業、1987年3月 大学院障害児教育専攻修了、現在は臨床・健康教育学系 教授



三期生
渡辺 径子 准教授

1986年3月 教科・領域教育専修卒業、2003年3月 大学院学校教育専攻修了、現在は学校教育学系 准教授



一期生
龍本 二幸 さん

1985年3月 教科・領域教育専修卒業、現在は経営企画課企画広報室長



OB・OG
座談会

上越教育大学創設期を経験した
第一期・二期生の方々に、当時の思い出を
熱く語っていただきました!

入学当時、特に印象に残っていることはありますか?

阿部 私は大学院の一期生ですが、学部生は2年前から入学していたんですよ。当時の学生はとても素朴な印象でした。今の学生みたいな素敵な格好ではなく、女子学生はみんなジャージを着ていました(笑)。
龍本 アパートなどない時代で、学生のほとんどが学生宿舎に住んでいました。そこから直接大学に行っていたんですよ。
阿部 ジャージ姿で(笑)。



藤井 その頃の宿舎は本城町の新潟大学の施設でした。
小高 新潟大学の高田分校に通っていたということですか?

渡辺 学園祭実行委員会の討論会で「やろう」と言っていて始めましたね。
阿部 市民のみなさんも楽しみにしてくれていましたよ。会場がお客さんでいっぱい。

流行していた髪型やファッションは?

渡辺 女子は「聖子ちゃんカット」ですね。松田聖子の時代。
龍本 男子の髪型のモデルは当時のアイドルグループでしたね。
小高 写真を見ると大きめのメガネをかけていた人が多いですね。あの頃に流行していたアニメのキャラクターみたいな。
藤井 当時、宿舎では個人でテレビを持っている人はいませんでした。共用のテレビの前に、男女関係なくみんなで集まって歌番組などを観ていました。



龍本 山屋敷の設備が整っていないので、入学式は新潟大学の高田分校の講堂で、授業も高田分校の校舎で受けたんですよ。



第1回入学式(会場/新潟大学教育学部高田分校講堂)

藤井 入学して数ヶ月でこちら(山屋敷)へ引っ越しをしました。周辺の道路は舗装されていなくて、引っ越しの日には雨の中、長靴でぬかるんだ道をとぼとぼ歩いたのを憶えています。
龍本 今みたいに大学の周りにこんな木が茂っていませんでした。建物だけある感じ。
藤井 講堂ができたのもずいぶん後です。グラウンドや体育館もなく、体育の授業は普通の教室にマットを持ってきたりし

雪国ですが、教育実習や日常生活での移動はどうでしたか?

藤井 車がなかったため、バイクや自転車です。実習に行くのは公共交通機関でした。



渡辺 新井や柿崎まで電車で行きました。みんなで歌を歌って。
阿部 冬は雪に覆われました。バスが運休になったり、宿舎の窓ガラスが割れるほどの大雪の年がありましたよ。
藤井 雪が降ったら歩きました。街灯すらない道を(笑)。
龍本 日常生活で困ることはそんなにありませんでした。当時はそれが普通だと思っていたので。

今でも自然が豊かな環境ですが、40年前はいかがでしたか?

藤井 宿舎の近くの池にたくさんウシガエルがいましたね。同

ていましたね。プールもなかったため、高田公園のプールで泳ぎました。でも、特に不便とは感じませんでした。
龍本 何もかもが初めてで、模索しながらやっていましたよ。ね。

創設当時の教員や事務員はいかがでしたか?

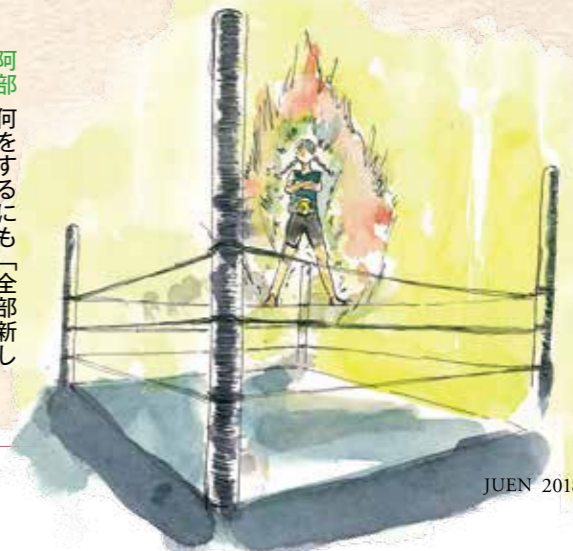
藤井 事務局の方がとても優しくかったです。学生一人一人を大切にしてくれました。
阿部 大学が始まったばかりで、学生の数が少なく、みんなの顔がわかっていましたね。
藤井 今でも時々、街でお会いすることがありますが、こちらを憶えていて声をかけてくださいます。
阿部 教員はどうでしたか?
藤井 色々でした(笑)。おおかたでしたね。先生と学生の距離が近く、「一生懸命みんなでやっていこう」という気持ちで学生にも伝わってました。

室の子がカセットデッキでその声を録音していました(笑)。あとは今も昔もカラスですね。
阿部 当時はもっと森がありましたよ。カラスは今より少なかったんじゃないですか?
藤井 別の地域でカラスが住んでいた森が伐採されて、そこから移動してきたらしいです。
龍本 マムシの話もありますよ。本城町から山屋敷に引っ越すとき、学生委員会委員長が「マムシが出るから長靴を履け」と。今は出ないんですか?
渡辺 今は住宅地が増えてあまり見かけませんが、その辺の藪に入ればいるでしょう(笑)。



授業や実習の内容は今とどう違いましたか?

藤井 教育実習が多く画期的な大学だと言われていました。
龍本 あの頃、一年次から段階的に教育実習をやっている大学は他になかったと思いますよ。
藤井 今はそれが当たり前になっていますが、先取りしていたんですね。
渡辺 四年次の秋に専修教育実習があったんです。私は自分の専門の理科の授業をしに柿崎小学校へ3週間行きました。とて



学園祭の思い出はありますか?

阿部 何をすることも「全部新しく自分たちで決めていこう」と、学生の意見も聞きながら先生方が意欲に燃えていましたね。
龍本 先輩がいらないのです。最初から立ち上げました。当日は教育実習で行った学校の子どもたちが来てくれたりしました。
阿部 学園祭で大人気だったのが体育コースの「群回プロレス」特に「女子プロレス」! この話をしたくて(笑)。

も印象的な実習でした。実は、三年次の普通教育実習で失敗をして、「教師にはならない」と思って就職活動をしていたんです。でも、専修教育実習で「やっぱり教師って良いな」と思って就職を断りました。
藤井 それが今につながるんですね。周りの先生方がそれだけ親身にやってくださってたんではないかな。
渡辺 とても良い経験でした。現場に入って、普通教育実習よりも近い関係を先生方と作れたっていうのは大事なことだったと思います。
藤井 より実践的に高められる実習になったんですね。

新しいことを発見した時は
とても楽しいです。



学部3年
社会系コース
道端 莉句さん

僕 座右の銘は文武両道です。これは勉強とスポーツどちらかを頑張ることは当たり前で、両方に全力で取り組むことこそ意味があると、昔教えられたからです。確かに両方頑張ることは大変ですが、達成感は凄くあります。今、大学の勉強と、卓球という15年以上上続けてきたスポーツを両立させ、昨年度は全国教育大学卓球選手権大会 男子シングルスで優勝することもできました。また、勉強に関しては、出来るだけ授業のない空きコマにも勉強するように心がけています。勉強のやり方は先生からもらったレジュメを自分なりにルーズリーフなどにまとめるという方法です。面倒くさいこともありますが自分で書いたほうが頭に残りやすいと思います。

僕は小さいときからマンガを読むことが好きでした。その中で歴史を学ぶマンガに出会いました。それから歴史の面白さに気付き、歴史の勉強を積極的にするようになりました。社会系コースを選んだのも、このときの影響が大きいと思います。3年生から卒論に向けた勉強を頑張っています。テーマはチヨコレートの歴史に関する一考察です。チヨコレートは世界中で愛されるお菓子ですが、一方で貧しい生産者の姿も見えてきます。これは現在のアフリカにおける力才農園の児童労働とも重なります。また研究の際には英語で書かれた書籍も読みます。海外と日本の歴史家の視点は必ずしも一致しておらず、その違いがなぜ生まれるのかを考えることも興味深いです。さらに研究を進めていき、小・中学校の社会科学の教材開発等にも活かしていければと思います。

子どもたちのために動くことの
大変さ、楽しさを実感する
毎日を送っています。



学部3年
幼児教育コース
土田 あすかさん

小 学生の時から「ちよつと男子〜」というタイプの女子でした。習い事も好きで、ピアノ・水泳・書道・バレエ・ドッジボールを同時に習っていた時期もあります。中高一貫校の2期生で、行事、部活、委員会など多くのことを自分たちで作ってきました。その精神は今の大学生活にも生きていると思います。現在は、学びのひろばで学生事務局をしています。子どもたちのために動くことの大変さ、楽しさを実感する毎日を送っています。それも実際に子どもたちの楽しそうな姿を見れば、一気に吹き飛んでしまつので、それが頑張れる力になっています。幼児教育コースなので、他の学生よりも実習は多いです。介護体験も日数が倍で、保育園実習も行います。4年生になったら、実際に自分で保育の場を設定する責任実習が待っています。また、今年度から英語の免許も取り始めたので、来年は中等教育実習にも行く予定です。誰よりも実習に行つてたくさんの方数を踏みたいと思っています！

実技も理論も学ぶことができ、
とても充実しています！



現役学生
の声



学部3年
生活・健康系コース
(保健体育)
高辻 紀乃さん

陸 上競技は、小学校6年時に地域の陸上クラブに入つて以来ずっと続けています。でも、小さい頃は運動が大嫌いだったのです。小学校4年生の時に始めた綱引きをきっかけに運動が得意になり、好きになりました。もともと短距離を中心に競技をしていたのですが、怪我と顧問の先生の勧めにより投擲へと転向しました。すると、伸び悩んでいた時期を抜けることができ、ジュニアオリンピックにも個人で出場することができました。あの時に、短距離ではなく投擲が向いている、と言ってくださった先生のおかげで、現在の私があります。その

今、体育の教師になるため、実技のみならず理論も多く学んでいます。頭で理解していても実際にできないこと、実際にできていても理解はしていないこともあり、実技も理論も学ぶことができ、とても充実しています。バイトも2軒の飲食店でやっています。お客様が求めているものを言われる前に、ということや、たくさんコミュニケーションをとって、自分の会話の引き出しを広げています。



在学中の学生たちがどんな想いで
日々を過ごしているのか聞いてみました！

大変なこともありますが、
やりがいと楽しさを
感じています！



小 小さい頃から野山で遊ぶのが好きで、山の木を切つて秘密基地を作つたり、川で遊ぶなどして、幼少期を過ごしました。また小学1年生からサッカーをやっている、高校生の時は毎日サッカーに明け暮れていました。大学では、様々なことに取り組み、充実した生活を送っています。大学2年生の春休みには、北海道、沖縄、岐阜に旅行に行きました。その土地独自の食文化や気候、文化を感じました。また、自分は大学祭の執行部に所属しています。各部署に分かれ、様々な仕事をを行い、学生が主体となって大学祭を運営しています。自分は学生取締役という役職につき、大学祭のテーマソングを作つたり、執行部が着る法被のデザインを考えたりなどの仕事をしています。大変なこともありますが、やりがいと楽しさを感じています。



学部3年
自然系コース
(数学)
藤田 貴大さん



修了生からの
お便り



知的給水、そして

学び続ける教師へ

今から30年以上も前、まだ元号が「昭和」の最後の時代でした。新採用2校目の勤務、中学校現場での6年間の経験を経て、大学院の第4期生として芸術系美術コースで学んでいました。新構想大学として全国の先駆けとなるべく実践的なカリキュラム、充実した設備環境、著名な先生方の下で、何かワクワクとした昂揚感、期待感に包まれて、美術教育の研究や作品制作に励んでいたことを覚えています。

夏の集中講義で、宮田亮平先生から鍛金の指導を受ける機会がありました。ご承知のように、宮田先生は佐渡市のご出身で、イルカをモチーフにした「シュプリングン (Springen)」シリーズで有名な日本の鍛金工芸家の第一人者です。東京藝術大学の学長を務められた後、平成28年4月から第22代文化庁長官に就任されています。当時、先生はまだ40歳前後、藝大の助手をされていた頃ではなかったでしょう。大変な暑さの中、宮田先生の指導の下、

何時間も汗だくになって槌を振る、一枚の銅板から立体を打ち出して一輪挿しを完成させた時の喜びは一人でした。学生や院生を相手に気さくに接し、エネルギーを注ぎ込んでいた。宮田先生のお姿とともに、鮮明に記憶に残っており、今となっては大変貴重な思い出です。

現職教員の大学院での研修や内地留学などの期間のことを、「知的給水時」と言います。教員にとって、多忙な職務の中で、自己研鑽のための時間的・精神的なゆとりをもつことは現実的に大変難しいものです。そんな中で、まさに言葉通り、大学院での研修は、その枯渇しそうな頭や心、体にも十分な養分や水分を補給する機会となります。

国家的な教育改革や機構改革の中で、国立大学の在り方、そこで学ぶ学生や院生の学び方なども改めて問われています。しかし、現職教員の再教育としての大学院での研修は、「学校現場」という着地点が保障されており、明確



早川 義裕
(はやかわ よしひろ)

上越市教育委員会教育次長、新潟県上越市出身。昭和63年3月、大学院修了後、糸魚川第二中学校、城北中学校教諭を経て、平成10年4月、中里中学校教頭。平成12年4月から、新潟県教育庁義務教育課指導主事・副参事・係長を経て、平成17年4月、牧中学校校長。平成20年4月から、義務教育課管理主事・係長・参事・課長を経て、平成25年4月、城西中学校校長。平成27・28年度、新潟県中学校長会・中学校教育研究会・中学校体育連盟会長を務める。平成29年3月、退職後、同年7月から現職。

な課題や目的をもって学ぶことができるという制度に変わりありません。「教師になることより教師であり続けるほうが難しい」と言われる中、こうした機会を得られることは、教員にとって極めて有意義なことです。

ぜひ、多くの方々が積極的に大学院派遣制度を活用し、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯に渡って高めていく「学び続ける教師」を目指すことを期待しています。

附属学校だより

附属幼稚園

太陽・土・水が大好き！

平成4年4月、大学校舎を仮園舎として、附属幼稚園が開園しました。翌年、現在の位置に園舎を移転し、「太陽・土・水の大好きな子どもたち」を指す子ども像に掲げ、自由と自立の調和を図った教育実践を重ねてきています。平成5年度から「幼児の自発活動を支える指導の在り方」を研究主題とし、幼児教育の5領域の教育課程や指導計画を8年かけて工夫、改善した経緯があります。平成6年10月に第1回の幼児教育研究会を開催できたことは、当時の関係者の皆さんにとって大変感慨深いものであったと文献に記されています。これまでの関係者の熱意と努力のお陰で、優れた園庭環境と教育課程が根付き、園は充実期を迎えています。



平成25年度からは、「遊び込む子ども」を主題に掲げ、研究に取り組んでいます。6年目の今年度は遊び込む子どもの姿を手がかりとしながら、受け継いできた従来の教育課程を見直し、再編成に取り組んでいるところです。今日も幸せそうな歓声があちこちで上がっています。今、注目されている幼児教育現場を是非見に来てください。

附属小学校

いつの時代も子どもが輝く学校

開校当時の研究主題は、「子どもが生きる学校生活の創造」でした。この年は、第二期教育課程研究の一年次にあたり、特に「総合教科活動」の設定に向けた研究が進められていました。

それから40年。本年度は第十期の研究期になります。研究主題「今を生き明日をつくる子どもが育つ学校」に掲げ、子どもがかけがえのない「今」を生きる喜びをつくり、人間としてよりよく生きる学校生活を営むことを目指しています。「感性」のはたらきに注目して創設した「創造活動」「実践道徳」「実践教科活動」「集団活動」の4つの新たな教育活動も4年目を迎えています。特に今年度は、「感性」がはたらく教育活動が、より一層充実するためには何が必要か、日々実践を積み重ねながら思考しています。教育課程は時代とともに変わってきていますが、子どもが輝く学校を追究しようとする姿勢が変わりはありません。



なお、今年度の研究会は、11月30日(金)です。公開授業、授業協議会、研究発表、音楽集会、講演会を予定しています。



附属中学校

持続可能な社会を創造し、自己を確立できる生徒の育成
「グローバル人材育成科の創設と6つの資質・能力」

昭和22年、新潟第二師範附属中学校として開校した当校最初の研究は「単元学習指導計画と特別教育活動」でした。それから70年の時が過ぎた現在、社会構造は著しく変化し、各国の利害を越えた国際協調の必要性が一層高まっています。今の子どもたちは「持続可能な社会」になるかどうかの転換期に立たされる世代であることを踏まえ、当校では平成27年度から「持続可能な社会を創造し、自己を確立できる生徒の育成」を主題に研究を進めています。

これからの社会で求められる資質・能力を【情報統合力】【代替思考力】【企画創造力】【主体的実践力】【コミュニケーション力】【コラボレーション力】の6つに整理し、アビリティと名付けました。そして「持続可能な社会を創造すること」「自己を確立すること」と「アビリティをあらゆる場面で発揮すること」を同義とし、アビリティの育成を意図的、計画的に行う教科「グローバル人材育成科」を創設しました。既存の各教科においても、アビリティ育成の視点から授業改善を行い、教育課程全体でアビリティの育成を目指しています。



マスコットキャラクター「ふそくま」

学部卒業者の教員就職率 80.3% (全国第4位) ※平成29年3月卒業者

平成31年度改組のお知らせ

上越教育大学は、子どもの未来を切り開くことのできる確かな実践力を備え、我が国の教育を担う中核的・指導的な教員の養成を目指して、次のような資質の育成に取り組んでいます。

- ★21世紀を生き抜くための能力
(基礎力・思考力・実践力)
- ★人間力
(優れた人格・豊かな感性・未来創造力)
- ★教育実践力
(豊かな教養・高度な専門的知識・優れた教育技術・使命感・創造力・人間愛)
- ★学び続ける力

そして、複雑かつ多岐にわたる現代的教育課題に対応できるように、小学校英語など

学習指導要領改訂に対応した科目の設定や、アクティブラーニングを中心とした授業形態の改善に取り組んでいます。また、特別支援教育については、大学院につながる6年一貫教育プログラムを導入しました。

さらに大学院では、教育実践力を基盤とし、専門職学位課程(教職大学院)、修士課程の特性を活かした組織改革を行いました。

- 専門職学位課程の充実
(高度専門職業人養成のために、入学定員を170人に増員・多様な領域・コースの設定)
- 修士課程・学校教育専攻の充実
(教育研究の最先端・理論的探究と実践力)
- 教員免許取得プログラムの充実
(大学院で、学位と教員免許が取得可能)

入学から卒業までの流れと卒業後の進路の例

推薦・前期日程・後期日程の各入学試験を受験
(入学定員160人)

入学

学部1年次

- 基礎や共通した科目を中心とした授業
- 人間教育学関連科目
 - 相互コミュニケーション科目
 - ブリッジ科目 など

充実した環境が学びをサポート

- 少人数教育システム
- 充実した教育実習
- 現職教員との活発な交流

進級

初等教育教員養成課程 学校教育専修 学部2年次 各コース・領域に所属(2年進級時に選択)

学校教育学部

ぜったい先生になりたい人のための大学

領域	コース
教科教育実践	学校教育実践コース 各教科の学習と教科外学習及び学級経営を中核としながら、教育実践を自らデザインできる教員を目指します。
学級経営実践	
小学校英語	先端教科・領域学習コース 先端的かつ専門的な能力や知見が求められる新領域や児童生徒の支援に対応できる教員を目指します。
プログラミング教育	
教科横断	
学習支援	現代教育課題コース 学校と児童生徒、教員をめぐる社会的、教育的課題を見据え、理論的実践的な対応ができる教員を目指します。
学習臨床・授業研究	
発達と教育連携	
道徳・生徒指導	幼年教育コース 幼年期における子供の発達を支える幼稚園教員や保育士を目指します。
臨床心理	
国語	教科内容構成コース 教科・科目に関して十分な素養と理解を備え教科指導力に優れた、実践力のある教員を目指します。
英語	
社会	
数学	
理科	
音楽	
美術	
保健体育	
技術	
家庭	

6年一貫教育プログラム
学部段階から大学院の特別支援教育の科目を履修して修士課程・発達支援教育コース(特別支援教育)に進学する。

※平成31年度開設の「教職課程再課程認定」申請中。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

就職

卒業時に小学校教諭一種免許状及び各種免許状・各種資格を取得

大学院へ進学

卒業

大学院 学校教育研究科

学部と継続した環境で発展的な研究が可能

領域	コース	専任
教科教育実践	教科教育・学級経営実践コース	専門職学位課程 教育実践高度化専攻 (入学定員170人)
学級経営実践		
小学校英語	先端教科・領域開発研究コース	専門職学位課程 教育実践高度化専攻 (入学定員170人)
プログラミング教育		
教科横断・教科実践開発		
学習支援	学習臨床・授業研究コース	専門職学位課程 教育実践高度化専攻 (入学定員170人)
グローバル・総合ICT・情報学習臨床		
発達と教育連携	現代教育課題研究コース	専門職学位課程 教育実践高度化専攻 (入学定員170人)
道徳・生徒指導		
幼年教育	発達支援教育コース	修士課程 学校教育専攻 (入学定員130人)
特別支援教育		
学校ヘルスケア		
臨床心理	心理臨床コース	修士課程 学校教育専攻 (入学定員130人)
文理深化・国語	学校教育深化コース	
文理深化・技術		
文理深化・英語		
文理深化・家庭		
文理深化・社会		
芸能深化・音楽		
文理深化・数学	芸能深化・美術	学校教育深化コース
芸能深化・美術		
文理深化・理科	芸能深化・保健体育	学校教育深化コース
芸能深化・保健体育		
国際理解・日本語教育	国際理解・日本語教育コース	修士課程 学校教育専攻 (入学定員130人)
教職キャリアアップ	教職キャリア支援コース	

※本計画は現在文部科学省と協議中です。なお、今後協議を進めていく段階で、コース名称等を変更することもあります。

卒業後の進路

入学～在学～卒業まで

兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究科(博士課程)への進学も可能

博士課程へ進学



上越教育大学の歩みと 更なる飛躍

上越教育大学は2018年10月で創立40周年を迎えます。大学の歴史としては決して長くはない40年の間に、教員養成のためのリーダー的大学として確固たる地位を確立してきました。新構想大学として創立した当時の「現職教員を中心とする大学院と初等教育教員養成が中心の学部」を持つ教員養成系大学としての使命は現在も変わることなく、以前に比べて数は減ったものの、現職の小学校教員、中学校教員などが大学院生として在籍する、学部、大学院修士課程、大学院専門職学位課程、連合大学院博士課程を擁する、「教育の総合大学」として確かな道を歩んでいます。

この40年の歴史をもとに、本学は更なる飛躍を目指し、大学院を中心に大きな改革を行います。学部学生定員、大学院学生定員は変わりませんが、大学院では現在60名の教職大学院を170名に拡充し、その機能の充実を図る一方、修士課程は定員130名として、教育研究に今まで以上に特徴を持たせ、教職大学院と修士課程の両輪で本学の更なる強みを発揮する予定です(12・13ページの図参照)。

まず、学部教育では、大学院へのカリキュラム上の連続性を考慮すると共に、小学校に新しく導入される外国語活動



第5回埼玉支部総会 等を開催

埼玉支部は第5回支部総会および教育講演・懇親会を本年2月3日、埼玉県上尾市で開催しました。大学からは理事兼副学長の梅野正信先生にお越しいただき、「上越教育大学大学院の現状と学校教育への貢献について」と題してご講演をいただきました。参加した会員の中には教職員・学校管理職の他に他大学の学長職や県内で教育長職の方もおり、同様な環境下で大学経営の新たな方向性、大学や研究教育機関等と学校現場が連携・相互貢献を推進する際の困難さが共有され、懇親会では一層この話題で盛り上がりました。

本支部会はJUN11号、22号でも報告しているとおり、前身の埼玉県現職派遣教員の研究会が母体となり、平成17年度から3年ごとに支部総会・懇親会を開催しています。現在の会員数は400人近くにのぼりますが、参加者は毎回20〜30人ほどその内訳は開学から20年目くらいまでの現職派遣教員の比率が高く、高齢化しています。今回は平成27年度・28年度に修了して埼玉に就職した若者が3人参加してくれましたが、この若い世代の参加者を増やすことが課題です。私を含め古い世代は梅野先生のスライドショーで大きな変貌を遂げた山屋敷一帯を知り、在学当時の風景を懐かしく思い出していました。今年は創立40周年という輝かしい節目の年とのこと、修了生とし

て上教大で学んだ2年間があればこそ現在の自分があることを忘れることはなく、埼玉の地にあっても上教大は常に母校であり、そこの学びをそれぞれの職で生かし、周囲に広げて埼玉県の教育に貢献していることと思います。

参加率が低いのもみな各職場・研究団体等で要職にあつて多忙が故と考えられますが、支部会の活動を学びとともに魅力あるものにし、より盛会にすることを通じて上教大大学院の存在を修了生として発信する活動につなげたいと考えています。

大学院同窓会埼玉支部部長
元埼玉県公立小学校長
米澤 豊

修了生の住所等をお知らせください

転居・転職・結婚等により個人情報の変更があった場合は、お知らせください。

詳細については、公式ホームページをご覧ください。

上越教育大学 同窓会

お問い合わせ先 上越教育大学大学院同窓会事務局
E-mail dousoukai@juen.ac.jp

や英語教育、各教科で必要となる情報活用能力や、特別教科化される道徳の充実などの喫緊の課題に対しても対応できるコースを設定します。

教職大学院では、学部教育の内容を高度に学ぶためのコースや領域を特化した形で配置し、また従来、修士課程で学ぶことができた学校現場での臨床場面や授業研究、子供の発達や学校教育において必要となる様々な連携などについても、機能を拡大して学ぶことができるようになります。

また、修士課程では、5種類の免許が取得できる特別支援教育や、近年注目される健康や食に関わる学び、臨床心理士や公認心理師の受験資格取得にも対応するコースや領域、各教科の内容や指導

方法を深く研究・学習するためのコースの他に、国際教育や日本語を中核とするコースや、現職教員が働きながら夜間や休日などにフレックス制度を利用して学ぶことができる教職キャリア支援コースを設置します。

本学は、このような改革を平成31年度から行うわけですが、現職教員の再教育・研修という使命に併せて、少子化の中の教職に対して強い意欲を持ち、教育界を支えて行く人材を養成し、輩出するという大きな使命を強く認識しながら、今後とも教育分野、学校現場の要請・ニーズに応えるべく大学改革を行い続けます。

学長 川崎直哉



インタビュー 大学院

で輝く人



大学院2年
芸術系教育実践コース
(音楽)
李泉さん

大学院3年(免P)
芸術系教育実践コース
(音楽)
田部菜さん



今回は、芸術系教育実践コースで声楽を専攻している、田部菜さん(3年、免P)と李泉さん(2年)にお話を伺いました。田部さんも李さんも大学院で研究を進めるとともに、演奏活動も積極的に行っておられます。

入学を決めた動機

田部:進学前に大学を見学して、教員養成に向けて設備が整っていることに魅力を感じたことや、上教大でなら勉強と専門の声楽が両立できると感じて入学を決めました。

李:大学時代からの指導教員から「上教

大には声楽の良い先生がいるから」と勧められて入学を決めました。

目指す教師像

田部:小学校の音楽専科の教員を目指しています。子どもたちからはもちろんのこと、保護者と一緒に働く先生方からも愛される教師になりたいと思っています。子どもたちの前では、常に笑顔を忘れず、笑顔あふれる学級を作れる教師になれると良いなと考えています。そして、子どもにも音楽の楽しさを伝えていきたいです。

李:「この先生は歌については、素晴らし

い」といわれるような教師になりたいと思っています。自分が好きな西洋音楽、特に、イタリア音楽の魅力も伝えていければと考えています。

後輩の皆さんに一言

田部:やりたいことをやる!好きなことにのめりこむだけのめりこむ!さらに、自分にきたチャンスは逃さない!といったことでしょうか。

李:レッスンの時間には、指導を受けている内容を自分でよく考え、自分なりに咀嚼して、自分のものにしていくことが大切だと思います。



インタビューを終えて

自分自身は、授業をこなすことで精一杯でした。先輩からお話を聞いて、「やりたいことをやる」といわれて、触発されました。人間としても音楽人としても成長できるように頑張っていきたいと思うきっかけになりました。

(追記) 田部さんは、7月末開催の第53回新潟県音楽コンクールにおいて新潟県知事賞を受賞されました。

聞き手・文(写真左)

大学院1年(免P) 芸術系教育実践コース(音楽)
友野 夏美

免P = 教育職員免許 取得プログラム

本学大学院入学で、教員免許を持っていない方や他校種、他教科の教員免許を取得したい方を対象に、長期履修学生制度を利用し、2年分の学費で3年間在学し、大学院の教育課程と学部で教員養成カリキュラムの単位を取得することにより、教員免許状取得の資格を得ることができるプログラムです。



アンケートにご協力ください

公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からもご回答いただけます。

QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。